

大洲病院ニュース

OZU CITY HOSPITAL NEWS

発行：市立大洲病院

編集：広報委員会

〒795-8501

大洲市西大洲甲570番地

TEL0893-24-2151

FAX0893-24-0036

目に見えない病気 こつ そ しょうしょう 骨粗鬆症

骨粗鬆症とは骨の量が減って弱くなり、骨折しやすくなってしまう病気です。多くの場合は自覚症状がないまま進行し、骨折しなければ骨粗鬆症であることに気がつきません。日本の患者数は1280万人で、男性が300万人、女性が980万人と女性に多い病気です。

骨粗鬆症になると

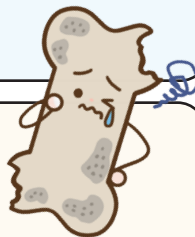
↓
骨が弱くなり、転倒などで背骨や大腿骨を骨折↓
ベッド上の時間が長くなり内臓が弱る↓
筋力が落ちて寝たきりに

年代別では

50代で9人に1人

60代で5人に1人

70代で3人に1人 が骨粗鬆症に



整形外科医長 石川 真史



【骨密度測定装置】

検査は寝ている状態で最短5～6分程度です。

一度低下した骨密度を回復させることは非常に困難です。骨折すると手術や入院治療が必要となります。そのため、若い頃から骨密度の維持に必要な運動・バランスのよい食事を心がけ、早期発見・治療を行い、「骨の貯金」をすることが大切です。

50歳以上になったら定期的に骨密度を測りましょう!!

「骨密度検査」とは、骨に含まれるカルシウムなどの量を測定する検査のひとつです。

<大洲病院で骨粗鬆症の診察を希望される方へ>

骨折を予防するため、骨密度の検査、骨粗鬆症の治療をご希望の方などいらっしゃいましたら、【電話番号24-2151】までお気軽にご相談ください。

<第39号の主な内容>

●「目に見えない病気 骨粗鬆症」… 1 P

●糖尿病透析予防チーム会の活動紹介… 2 P

市立大洲病院公式ホームページ

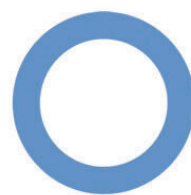
<http://www.ozuch.jp/>

糖尿病透析予防チーム会の活動紹介 シリーズ① 世界糖尿病デー**～ 11月14日は「世界糖尿病デー」です ～**

拡大を続ける糖尿病の脅威に対応するため、2006年（平成18年）に国際連合は、インスリンを発見したカナダのバンティング博士の誕生日である11月14日を「世界糖尿病デー」に認定し、糖尿病の予防・治療・療養について啓発活動を推進しています。

現在では世界でも有数の疾病啓発の日となっており、この日を中心に全世界で繰り広げられる糖尿病啓発キャンペーンは、糖尿病の予防や治療継続の重要性について、多くの方に考えてもらう重要な機会となっています。この日は世界糖尿病デーのシンボルマーク「ブルーサークル」にちなみ全国各地でブルーライトアップが行われます。

大洲市では11月12日(日)（18時30分～21時）に大洲城のブルーライトアップが行われます。ぜひ、ご家族や大切な人とともに糖尿病について考える機会にしてください。

**world diabetes day**

14 November

世界糖尿病デーのシンボルマーク「ブルーサークル」は、国連や空を表す「青（ブルー）」と団結を表す「輪（サークル）」で、糖尿病に対して団結しようの意味を表しています。



昨年のライトアップの様子

**「みんなで感染予防」
施設への出前講座を行っています**

今回は、高齢者施設において感染対策をテーマに講座を開催しました。

感染予防の基本は「手洗い」です。参加された皆様には効果的な手洗いについて、熱心に学んで頂きました。

正しい手洗いを習得して、自分や家族を守り、地域を元気にしていきましょう。



当院では出前講座を実施しています。ご希望の方は当院までご相談ください。

**愛媛大学地域医療看護実習の
学生さんを受け入れました**

愛媛大学地域医療看護実習では、医学生・看護学生が大洲市のへき地医療や在宅医療について学び、地域の方々の暮らしについて理解を深めました。

当院は学生の皆さんが今後地域で活躍できるよう全力で応援しています。

